吉原治良作品調査についての報告書

大阪新美術館建設準備室 外部研修生
石丸 輝

■　研修内容

この研修の主な目的は、2021 年度に開館される大阪の新たな美術館への展示にともない、コレクションの主要作家である吉原治良について、平成 31 年度の修復候補作品を調査することである。

担当学芸員の指導の下、作品の亀裂、剥落、カビ、変形の有無などをペンライトで画面を照らしながら点検する。点検箇所について、1 作品につき 1 枚の調書を作成し、状態や画面サイズを記録。また、今後より頑丈な保護が必要であると判断すれば、包装方法を変更するなどの作業を行なった。

この作業は基礎的なことであるが、今後作品を残していくためには非常に重要な工程となる。

■　研修日程

8 月 2,　6,　8,　10,　17 日　13:30~17:00

■　調査作品

吉原治良油彩作品　４８点

■　研修を通して学んだこと

私は美術館に行き、絵画を見ることは以前から好きだったが、その作品が美術館に作品として展示されるまでの作業については全くの無知であった。大学の教授に紹介してもらった吉原治良の作品に驚き、引きつけられた。このような絵を描く画家は他にどのようなものを描くのか、また作品が美術館へたどり着くまでの流れをこの目で見たいと思い、美術専攻ではないものの、研修に応募した。

研修期間中は慎重に作業をした。実際に本物の作品に触れる際はとても緊張した。この作業の間、筆の跡や重ねた絵具などを間近で見て、単純に見える作品の裏の試行錯誤を感じることができた。また、額縁に残った手形や絵具に混じった髪の毛など、作品の中に作者が生きていたと直球で感じさせてくれる部分が多くありとても心を揺さぶられた。

作品展示に関してもいろいろ学ばせていただいた。特に印象に残っているのは、私が今まであまり注目していなかった額縁という存在が、いかに作品保護において大切かということだ。研修後、美術鑑賞に行った際には、明らかに作品の見方が変わっていた。ただ絵を見るだけでなく、修復箇所を探し、どのようにして保存されているのか、この絵に合った額は

どのようなものなのか、などをよく見るようになった。今までも美術は好きだったが、作品保存の現場を実際に見て触れて学び、新たな知識を得たことにより、作品をより多くの視点から見られるようになったのだと身をもって感じた。

■　研修の感想

私は今回この研修を通して、学芸員の方々のコツコツと地道な作業により、作品が良好な状態で保存され、新たな美術館での活動につながるということを知った。そしてそれは、経済、観光にも影響してくる。

大阪市では、所蔵する第一級のコレクションを活用し、市内中心部である中之島での新しい美術館の建設に向けて動いているという。中之島は、江戸時代、水路を利用して物資を運ぶその陸揚げの基地として好条件であったため、諸藩の蔵屋敷が立ち並び全国各地から物資が集まり栄えた。「天下の台所」といわれる大阪の原型を作る役割を担った中之島は、その活気を脈々と受け継ぎ、現在も日本を代表する企業が数多くビルを構えている。また、大阪の文化や芸術の中心地としても知られ、大阪市中央公会堂、日本銀行大阪支店、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館など、文化、経済、科学、芸術の中心的な建物が数多く存在しているほか、大阪市役所もあり、行政の中心地でもある。

この中心地に新しい美術館を建設するということ、そして、単に美術館があるだけではなく、吉原治良や佐伯祐三のような大阪市出身作家の作品を展示するという事は、大阪の芸術の厚みを印象付け、文化・芸術の街として大阪を全国に向けてアピールできる。そしてこの美術館に観光目的の１つとして人々が訪れれば、大阪の経済の発展に貢献することも考えられる。

こうして今まで別々に思っていた芸術と経済が結びついていることを知った。

大阪の経済を動かす歯車のその元を体験させていただいた気がする。学芸員の方々のこの作業が大阪の発展の１つの出発点になっているのではないかと感じた。

作品調査報告

①

作 品 番 号 ：７－３２
作品制作年：1960 年代
作 品 寸 法 ：130.6×97.4 ㎝（仮縁：画面＋1 ㎝，奥行 3 ㎝）
所　　見　　：仮縁が面をかわしていない。剥落寸前箇所あり。裏面木枠に当たり傷あり。
画面左下に作者サインあり。

表

【全画面】

【部分】剥落・**剥落寸前**

裏

【全画面】

【部分】当たり傷

②

作 品 番 号 ： 7 － 4 5
作品制作年：1960 年代
作 品 寸 法 ：91.0×116.4 ㎝（額縁：101.8×127.4×7.2 ㎝）
所　　見　　：剥落寸前箇所あり。画面右下に作者サインあり。裏面良好。

表

【全画面】

【部分】**剥落寸前**

【凸部分】亀裂、開口

【凸部分】亀裂、開口

裏

【全画面】

③

作 品 番 号 ：７－６８
作品制作年：1960 年代
作 品 寸 法 ：100.0×80.5 ㎝（縁なし）
所　　見　　：亀裂、浮きの危険個所あり。画面左と上部分広範囲に汚れ。

表
【全画面】

【部分】亀裂、浮き

【部分】剥落

【部分】亀裂、浮き

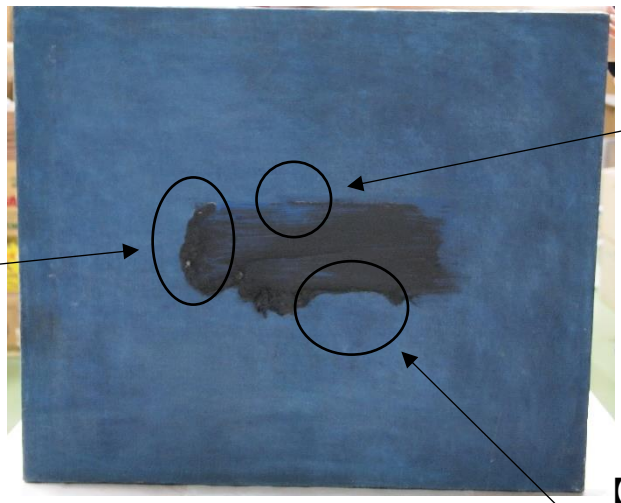
裏
【全画面】

④

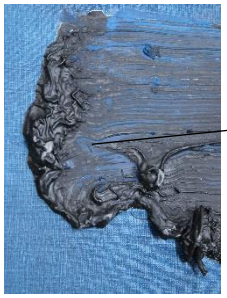
作 品 番 号 ：７－９０
作品制作年：1970 年代
作 品 寸 法 ：60.5×72.5 ㎝（額縁なし）
所　　見　　：亀裂、開口の危険個所あり。ホコリ蓄積あり。裏面良好。

表

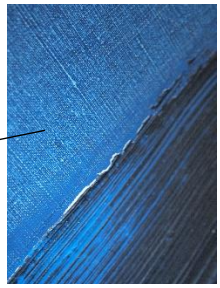
【全画面】



【部分】繊維付着



【部分】亀裂、開口



【部分】亀裂、開口

裏

【全画面】

⑤

作 品 番 号 ：A－５６
作品制作年：1960 年代
作 品 寸 法 ：65.5×53.5 ㎝（仮縁あり）
所　　見　　：大きな欠損と亀裂あり。全面にホコリ堆積。画面左下に作者サインあり。

表

【全画面】

【部分】欠損

【部分】欠損

【部分】亀裂

裏

【全画面】

⑥

作 品 番 号 ：A－８２
作品制作年：1950 - 60 年代
作 品 寸 法 ：91.0×116.4 ㎝（額縁なし）
所　　見　　：張りが少し緩い。画面の上下再検討。

【部分】
・剥落（左上）
・亀裂、少し開口（全面）
・茶色の汚れ（左下）

表
【全画面】

【部分】
・処置済の剥落（左中央）
・変色（右全体）
・白濁（黒絵の具）

横向きの可能性あり

裏
【全画面】

⑦

作 品 番 号 ：A－９１
作品制作年：1960 年代
作 品 寸 法 ：90.3×60.5 ㎝（額縁なし）
所　　見　　：亀裂、剥落多数。裏面にへこみあり。

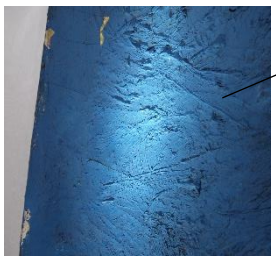
【部分】大きな亀裂、剥落

表

【全画面】

【部分】剥落、亀裂

【部分】剥落、亀裂、浮き



【部分】剥落

裏

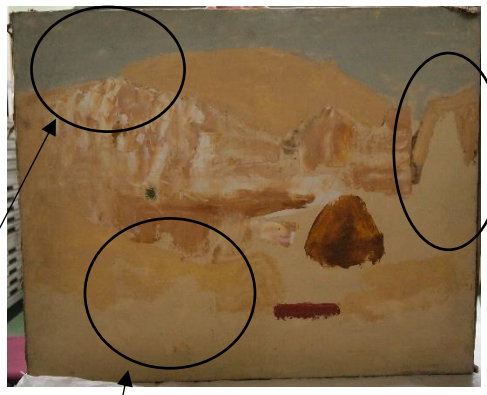
【全画面】

⑧

作 品 番 号 ：A－１１１
作品制作年：1930 年代
作 品 寸 法 ：65.0×80.3 ㎝（額縁なし）
所　　見　　：全面に亀裂あり。隆起している。

表

【全画面】



【部分】亀裂、浮き

【部分】亀裂

【部分】亀裂、浮き、膨らみ変形

裏

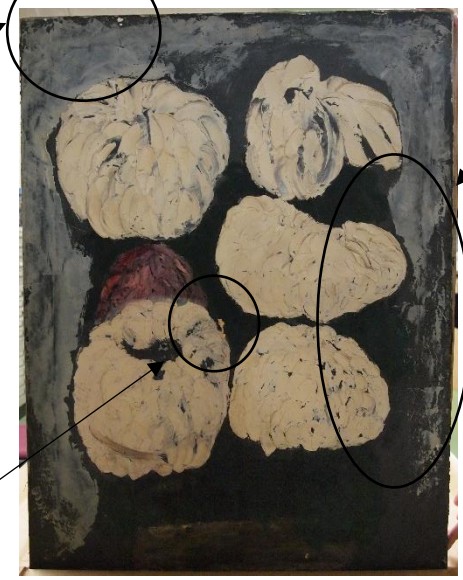
【全画面】

⑨

作 品 番 号 ：A－２２１
作品制作年：1940 年代
作 品 寸 法 ：80.0×60.5 ㎝（額縁なし）
所　　見　　：全面に亀裂あり。画面右側全体に波打ち。

表

【全画面】



【部分】剥落

【部分】亀裂、波打ち

【部分】剥落

裏

【全画面】

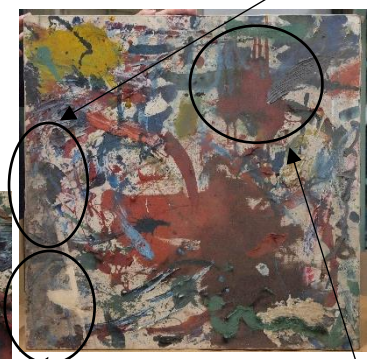
⑩

作 品 番 号 ：A－３０６
作品制作年：1950 - 60 年代
作 品 寸 法 ：69.0×69.0 ㎝（額縁なし）
所　　見　　：全面にホコリ。画面左下に破れあり。

【部分】破れ、汚れ

表

【全画面】



【部分】敗れ、汚れ

【部分】ホコリ堆積

裏

【全画面】